

24:25

ERC総括

(左)

(左)

経亮(2頁)

0:27

ERC 医療班状況報告⑦

平成23年3月11日 23時50分時点 (下線が更新情報)

【患者状況】

1. 被ばく患者の措置状況:

- 福島第一: 不明
- 福島第二: 無し

2. その他負傷者情報

- 福島第一: 社員2名 (軽傷)
 - 協力会社2名 (うち1名両足骨折)
 - 行方不明2名 (4号タービン建屋内)
- 福島第二: 1階軽傷2名、重症2名、2階死亡1名 (クレーン
のオペレータ、積荷に当たって死亡)

- JAEA 東海再処理施設: 1名けが
事故発生場所: 再処理 UC 玄関。
事故概要: 発生時間 17:28
負傷状況: 左コメカミ、赤チン程度

- 日本原燃 (株) 再処理施設: けが人なし

- 原子燃料工業 (株) 東海事業所: けが人なし

- GNF: けが人なし

- 東海第二発電所 (?): けが人なし → 3名軽傷
発生場所: 煙突に宙づり
負傷状況: 軽傷 (救助され病院搬送 → 帰宅中)

- 浜岡原子力発電所: けが人なし

- 女川原子力発電所: 1名けが (協力会社)
負傷状況: 落下物で足に血のにじみ程度

【医療機関の被ばく患者受入状況】

- 21:25頃 福島県立医科大学付属病院 (二次被ばく医療機関) に被ばく患者発生時の患者受入を要請 → 体制整備済。
- 21:30頃 放射線医学総合研究所 (三次被ばく医療機関) 被ばく患者受入体制整備済。

- 22:30頃 今村病院（一次被ばく医療機関）現時点で受入不能。
福島県厚生農業協同組合連合会双葉厚生病院（一次被ばく医療機関）現時点で受入不能。
- 23:10頃 福島県立大野病院（一次被ばく医療機関）被ばく患者受入体制整備済を確認。

【安定ヨウ素剤の状況】

県対策本部に安定ヨウ素剤の備蓄場所と量を照会中。

大熊町役場に安定ヨウ素剤24,000錠（1人2錠）準備完了。

双葉町役場に安定ヨウ素剤錠剤1000個入（16箱）、粉末25g3瓶、生成水4本、シロップ4本を準備。

【救護所の設置状況】

双葉町：3キロ圏外4カ所に住民を移動し、救護所を開設予定。ヨウ素も準備予定。

24:25

ERC 総括

⑤

3月同日追加版

原燃、保安院

ERC 医療班状況報告⑦

平成23年3月11日 23時50分時点 (下線が更新情報)

【患者状況】

1. 被ばく患者の措置状況:

福島第一: 不明
福島第二: 無し

2. その他負傷者情報

○福島第一: 社員2名 (軽傷)

協力会社2名 (うち1名両足骨折)

行方不明2名 (4号タービン建屋内)

○福島第二: 1階軽傷2名、重症2名、2階死亡1名 (クレーン
のオペレータ、積荷に当たって死亡)

○JAEA 東海再処理施設: 1名けが

事故発生場所: 再処理 UC 玄関。

事故概要: 発生時間 17:28

負傷状況: 左コメカミ、赤チン程度

○日本原燃 (株) 再処理施設: けが人なし

○原子燃料工業 (株) 東海事業所: けが人なし

○GNF: けが人なし

○東海第二発電所 (?): けが人なし → 3名軽傷

発生場所: 煙突に宙づり

負傷状況: 軽傷 (救助され病院搬送 → 帰宅中)

○浜岡原子力発電所: けが人なし

○女川原子力発電所: 1名けが (協力会社)

負傷状況: 落下物で足に血のにじみ程度

【医療機関の被ばく患者受入状況】

21:25頃 福島県立医科大学付属病院 (二次被ばく医療機関) に被ばく患者発生時の患者受入を要請 → 体制整備済。

21:30頃 放射線医学総合研究所 (三次被ばく医療機関) 被ばく患者受入体制整備済。

- 22:30頃 今村病院（一次被ばく医療機関）現時点で受入不能。
福島県厚生農業協同組合連合会双葉厚生病院（一次被ばく医療機関）現時点で受入不能。
- 23:10頃 福島県立大野病院（一次被ばく医療機関）被ばく患者受入体制整備済を確認。

【安定ヨウ素剤の状況】

県対策本部に安定ヨウ素剤の備蓄場所と量を照会中。

大熊町役場に安定ヨウ素剤24,000錠（1人2錠）準備完了。

双葉町役場に安定ヨウ素剤錠剤1000個入（16箱）、粉末25g3瓶、生成水4本、シロップ4本を準備。

【救護所の設置状況】

双葉町：3キロ圏外4カ所に住民を移動し、救護所を開設予定。ヨウ素も準備予定。

原子力発電所状況一覧

平成22年3月11日 23:59

原子力発電所	地震前運転状況	地震後運転状況 【止める】	【冷やす】	対応状況 【閉じこめる】	【電源】	事務所連絡
大井所	操業中	非常用DG起動			非常用DG起動	連絡可
	運転中	運転継続中	冷却可	放射線モニター異常なし	外電源失 非常用DG	連絡可
	定検停止中	定期検査中		放射線モニター異常なし	非常用DG起動 外電あり	連絡可
女川	運転中	スクラム	RCIC注入中	放射線モニター異常なし	外電あり	連絡可
	定検起動中	スクラム	RCIC注入中			
	運転中	スクラム	RCIC注入中			
	運転中	スクラム	非常用復水器冷却中	放射線モニター異常なし	15.42 非常用DGトリップ	連絡可
	運転中	スクラム	RCIC停止		15.42 非常用DGトリップ	
	運転中	スクラム	水位十分確保		15.42 非常用DGトリップ 使用不可 DG起動	
福島第二	運転中	スクラム	RCICにより注入中	放射線モニター異常なし	DG起動できない 外部電源あり	連絡可
	運転中	スクラム	RCICにより注入中			
	運転中	スクラム	水位十分確保注入中止			
	運転中	スクラム	HPCSで注入中			
	運転中	運転中		放射線モニター異常なし		
	定検停止中	定検停止中				
柏崎刈羽	運転中	スクラム	RCICにより注入中	放射線モニター異常なし		
	定検停止中	定検停止中				
	定検停止中	定検停止中				
	定検停止中	定検停止中				
	運転中	運転中				
	運転中	運転中				
	運転中	スクラム	RCICにより注入中	放射線モニター異常なし	外部電源喪失 非常用DG起動中	連絡可
浜岡	定検停止中	定検停止中				
	運転中	運転中				
	運転中	運転中				
その他	MMNF					

【主なクロージー】

- 15:42 1F 1から5号で全交流電源喪失 10条通報
- 16:45 1F 1号及び2号で事業者から15条と判断した旨通報
- 18:38 17:35 2F1号 事業者が10条と判断した連絡
- 19:00 18:33 2F1、2、4号 事業者が10条と判断した連絡

... 警戒本部設置

○プールのスロッシングなし

○ポリエチレンから火災→消火済み

吸入による甲状腺被ばく等価線量
 日時 = 2011/03/12 03:00 - 2011/03/12 06:00 の積算値
 気象データ = GPVのみ

福島第1 1号炉 狭域図
 核種名 =ヨウ素
 対象年齢 =1歳児

放出地点 : 141°02'08" - 37°25'18"
 領域 : 23km × 23km

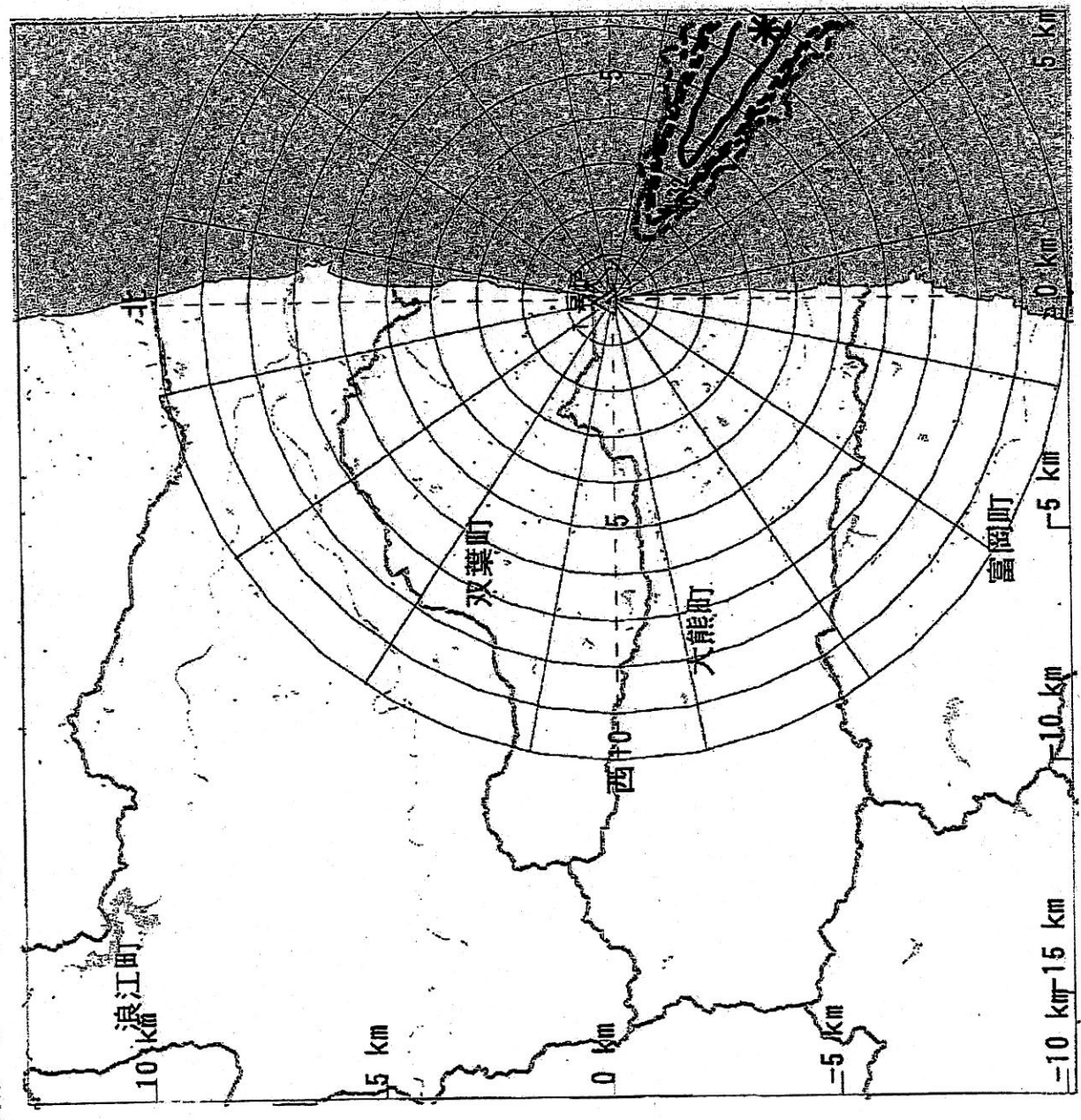
【凡例】
 線量等値線 (mSv)

- 1=50
- 2=10
- 3=5
- 4=1
- 5=0.5

最大線量=86.8mSv
 放出地点の東南東 6.9 km地点 (*印)

計算モデル名 = PRWDA21
 使用モデル名 = 通常モデル

【計算条件】
 計算メッシュ幅 水平方向 = 0.25 km
 放出高 = 120.0m
 燃焼度 = 20000 MWD/MTU
 原子炉停止時刻 = 2011/03/11 14:47
 放出開始時刻 = 2011/03/12 03:30
 放出モード = 変動【換】
 放出核種・放出率(積算) : Bq/h (Bq)
 希ガス : 1.2×10¹⁶ (1.2×10¹⁶)
 ヨウ素 : 3.9×10¹⁴ (3.9×10¹⁴)



総量 1:33 (3頁)

25:35

1/EI ← E/R/C 総括

ベント仮想事故1号機

外部被ばくによる実効線量

日時 = 2011/03/12 03:00 - 2011/03/12 06:00 の積算値

気象データ = G.P.Vのみ

福島第1 1号炉 狭域図

核種名 = 全核種

対象年齢 = 成人

放出地点 : 141°02'08" - 37°25'18"

領域 : 23km × 23km

【凡例】

実効線量等値線 (mSv)

- 1=0.1
- 2=0.05
- 3=0.01
- 4=5.00×10⁻³
- 5=1.00×10⁻³

最大線量=0.2mSv

放出地点の東南東 0.2 km地点 (*印)

計算モデル名 = PRWDA21

使用モデル名 = 通常モデル

【計算条件】

計算メッシュ幅 水平方向 = 0.25 km

放出高 = 120.0m

燃焼度 = 20000 MWd/MTU

原子炉停止時刻 = 2011/03/11 14:47

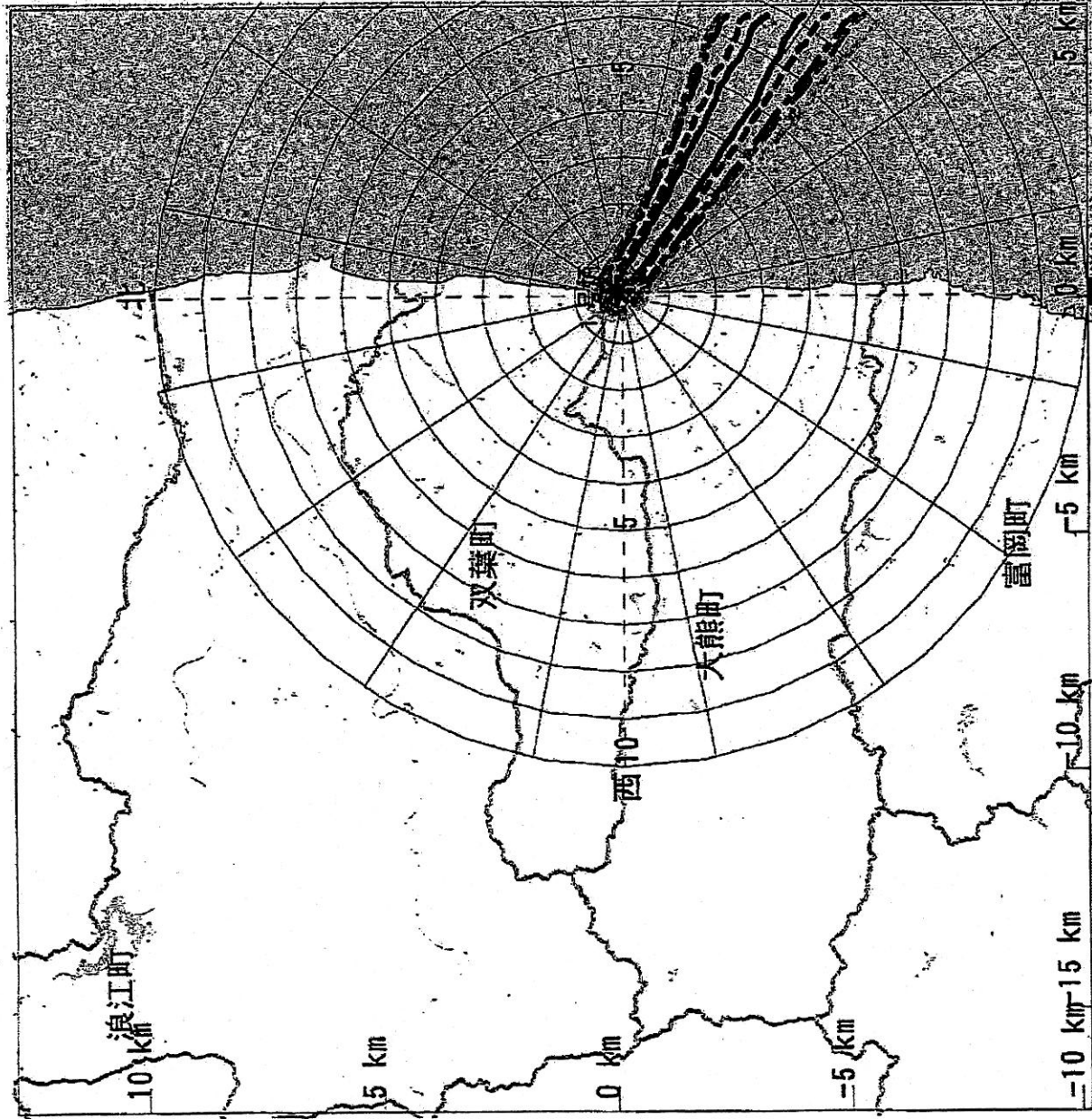
放出開始時刻 = 2011/03/12 03:30

放出モード = 変動【換】

放出核種・放出率(積算) : Bq/h (Bq)

希ガス : 1.2×10¹⁶ (1.2×10¹⁶)

ヨウ素 : 3.9×10¹⁴ (3.9×10¹⁴)



ベント仮想事故1号機

風速場 (地上高)

日時 = 2011/03/12 03:00

気象データ = GPVのみ

福島第1 狭域図

サイト中心 : 141°02'10" - 37°25'12"

領域 : 23km X 23km

表示高度 = 120.00 m

サイト中心付近の風 : 西北西 7.9 m/s

大気安定度 : D型

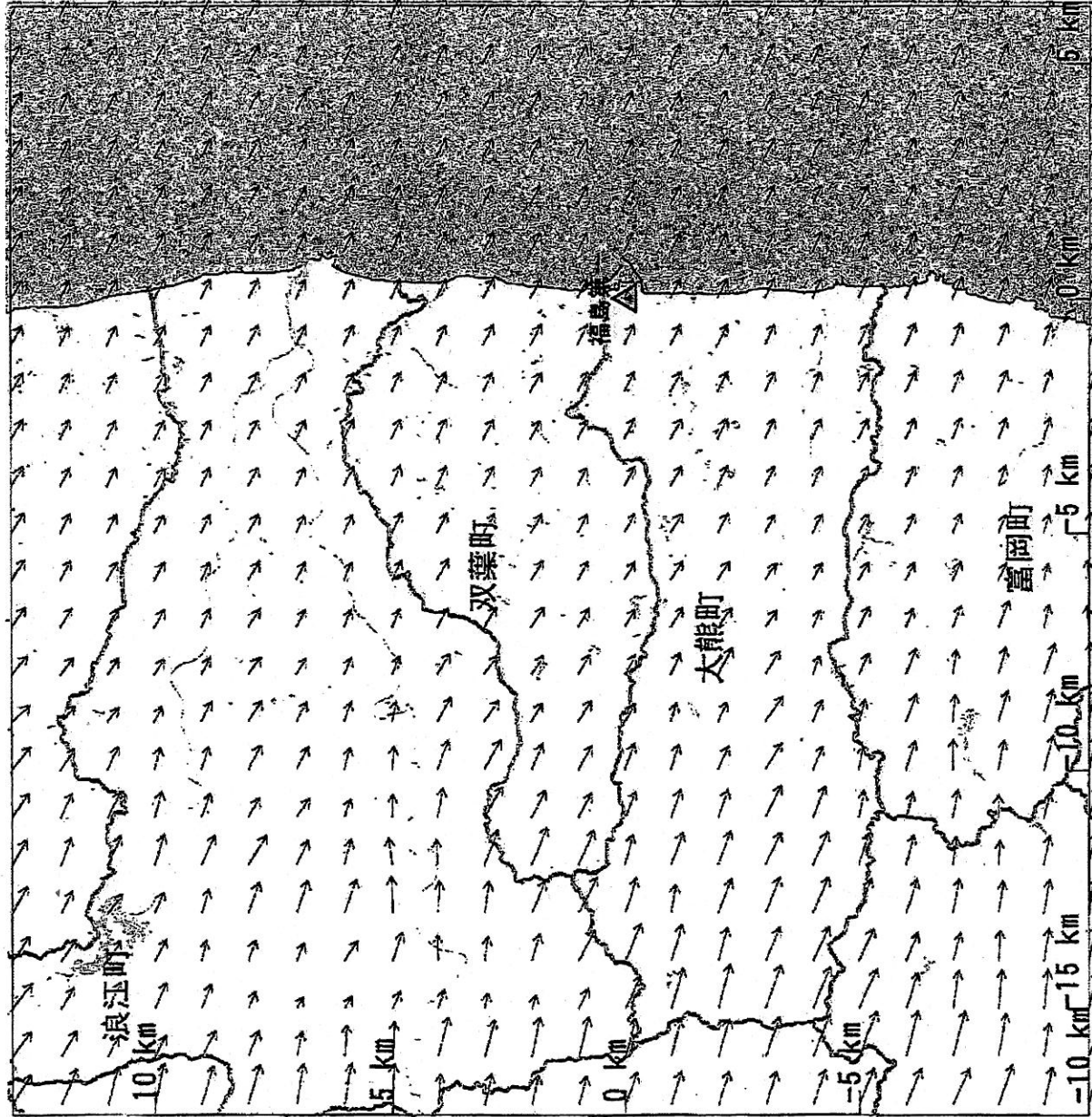
計算モデル名 = WIND21

計算メッシュ幅 水平方向 = 0.50 km

【凡例】

標準風速

→ 10 m/s



ベント仮想事故1号機

左

経済産業省

2:07 (4頁)

クロノロジー

<3月11日>

14:46 地震発生 → 直ちに対策本部設置

14:50 院長官邸参集 (随員 甲斐さん)

① 女川 (震度6強) 1, 2, 3 スクラム停止 (567.5gal スクラム成功MP異常なし dg 起動中)

② 東通 (震度5強) 定検停止中 (スクラム成功DG A起動)

③ 1F1, 2, 3 (6強) スクラム停止 4, 5, 6 定検停止中 (MP異常なし E CCS起動なし)

④ 2F (震度6強) 1~4 スクラム停止 (MP異常なし ECCS起動なし)

⑤ 東海第2 (震度6弱) 自動スクラム停止 (RCICで水位確保HPCS起動)

⑥ KK (震度4) 1, 5, 7 運転継続中 2, 3, 4 定検停止中

⑦ 六ヶ所 (震度5強) 非常用dgで電力供給中

⑧ 泊 (震度3) 1, 2, 3 継続運転中

⑨ 浜岡 3 定検停止中 4, 5 継続運転中 プールの溢水なし

⑩ GNF-J 地震に伴い停電発生 (dgは正常に稼働) MP異常なし

14:55 官房総務課に院長参集とERC立ち上げ連絡

15:15 モバイル保安院 配信予定 (同じ文書でプレス)

15:16 モバイル保安院 発出

女川津波 10m (敷地高15m)

15:15 プレス会見 (中村審議官)

16:30 次回プレス会見予定@第4特別会議室

15:42 1F (1, 2, 3) DGトリップ (10条事象) 注:事務所情報

18:00 政府調査団機 市谷から飛ぶ予定 (官邸甲斐さんより) →搭乗について検討

依頼

15:50 事業者より1F, 2FのDG不調との連絡あり

15:42 10条通報 (事業者より連絡あり) 1F6 Bのみ起動 あとは起動していない (1F 1~5 全交流電源喪失 ちなみに4, 5は定検停止中)

15:42 警戒本部設置 (現地警戒本部も同時立ち上げ)

16:02 福島OFC停電 DG立ち上がらず ERSSも伝送できず

16:04 2F 外部電源OK

16:05 三菱原子燃料 ポリ容器に焦げ見つかる。(16:09 消火)

16:10 1F1~3 RCICで注水中 (8時間程度もつ)

16:13 2F 1, 2 RCIC注水中 3 水位十分のため停止中 4 HPCS 2で注入中

16:03 プレスへ10条通報あった旨連絡

16:20 官邸リエゾンに追加派遣 (保安課 高橋)
16:30 福島への派遣者決定 (黒木審議官、山本課長、石垣室長)
16:45 事業者より1F-1, 2について15条通報あり (事象発生判断 16:36)
17:30 現地派遣組 霞が関出発
17:05 産業保安 政府調査団出発 (17:54 市谷集合)
17:30 保安院は15条事態と判断 上申プロセスに入った
17:40 1F 4 重油タンク脇火災発生
17:45 プレス第3報 発出
18:15 ERC内会議 (事象進展について)
18:22 海江田大臣→総理大臣上申 結論に至らず (もう少し情報収集して判断すること) 従って対策本部開始も未定
18:25 自衛隊機1F電源車到着 (到着時間は不明) 電源車 1号機メタクラに接続作業中 (最低1時間かかるとのこと) (計6台要請中)
18:30 全閣僚を対象と閣僚会議開催 (官邸4階大会議室)
18:38 17:35に2F-1 10条判断との情報あり
18:33 2F-1, 2, 4 10条通報 (原子炉除熱機能喪失)
18:48 17:15 女川1号機タービン建屋地下1階発煙→自衛消防CO2で消火
18:50 電源車もう1台が到着予定
19:13 プレス会見
19:30 ERC内にて情報共有会議
20:15 プレス会見 (第5報)
(負傷者情報 被ばく者なし 負傷者 (JAEA再処理 1名けが、赤子程度 その他日本原燃、NFI、GNF、東海第二、浜岡 けが人なし)
19:03~22 官邸で対策会議開催
19:03 緊急事態宣言発出 (政府対策本部、現地対策本部設置)
19:20 電源車手配状況 水戸みがわ中 高圧1台、低圧1台 大宮駐屯地 低圧3台 (ヘリでは無理。水戸にあるものを陸送、パトカーに先導依頼予定←20:30 情報)、ゆう柿 明和記念公園 高圧2台 低圧4台 (待機状況確認中)
19:46 官房長官会見
19:50 電源車はまだ未到着との連絡が事業者からあり
20:30 副大臣ほか 市谷到着
20:35 「1F-2 RCIC停止 → 東電が住民避難検討開始」の連絡受け
20:50 福島県が発電所半径2kmの住民に避難指示との情報あり
20:55 池田副大臣 防衛省 (市谷) 出発 21:50 大滝根分屯基地 (福島県双葉郡) に到着予定、陸路にて1Fに向かう (直線距離で20km) 予定

21:03 現地にヘリ発 (池田副大臣、黒木審議官、山本課長、石垣室長、寺本秘書官、金子、海老根)

21:05 東北電力の電源車が福島 OFC に到着→発電所を優先させるよう指示

21:09 東北電力から2台めの電源車到着 (あと2台東北から向かっている)

21:16 県より連絡 (避難対象 1864名)

21:20 ERC 打合せ (プラント情報説明)

21:20 福島 OFC バッテリー切れ 隣接の福島県原子力センターに移動

21:25 福島県立医科大学付属病院に被ばく患者が発生した場合の受け入れを要請

21:27 官邸より連絡 (総理による避難命令 周辺 3km で避難 (10km 屋内退避) 指示文作成すること)

21:30頃 放射線医学総合研究所被ばく患者受け入れ体制整備済み

21:41 安全委員会とのTV会議終了

21:45 医療班状況報告 (変更分のみ; 1F 社員 2名 (軽傷) 協力会社 2名 (病院搬送中))

21:47 プレス (21:30時点情報)
病院に被ばく患者が発生した場合の受け入れを要請

21:50 高圧1台到着もケーブルで接続中

21:53 官房長官会見

21:54 1F-2 水位計復帰し、水位がL2であることを確認

22:00 電源車2台発電所到着

22:12 福島県原子力センターの現状 (FAX1本、パソコンなし、SPEEDI 伝送無理、現地到着メンバーは東電8、大熊町1、保安院1f2、2f4名)

22:14 福島県庁 災害対策本部に確認したところ、避難の状況について詳しい情報は把握できていないが大きな混乱が生じているとの情報は入っていないとのこと。

22:30 副大臣 大滝根分屯基地に到着

22:50 川崎火力のバッテリー自衛隊に輸送依頼 (東電) →断念 広野火力分を輸送中

23:03 福島県内堀副知事 原子力センターに到着

23:17 プレス第7報

23:35 機能班責任者会議 (ERC 内) →23:50 終了

23:30 電源車3台発電所到着

23:30 低圧ケーブルを上浦から自衛隊輸送中

23:40 2Fで負傷者 (意識なし、脈なし) →死亡確認 (1名) 積み荷にあたり怪我

23:55 大熊町3km 圏内住民避難完了。

<3月12日>

24:00 池田副大臣 現地到着

- 24:07 双葉町 避難継続中 (2km→3kmとなったのでやや遅れている)
- 24:08 大熊町、双葉町 安定ヨウ素剤準備完了
- 24:15 官房長官会見 (予定)
- 24:25 1F-1ドライウエル圧 (設計400→今600)
- 24:30 現在 電源車4台発電所到着 (4台発電所近傍まで到達)
- 24:32 1F 低圧ケーブル構内で発見 接続作業に入る
- 24:35 電源車情報 (全部で高圧50台、低圧20台が向かっている)
- 24:30 池田副大臣 → 大臣へ電話
- 24:40 危機管理監 危機管理チームは休憩に入るとのこと (5:30 開始)
- 24:50 プレス第8報
- 24:58 女川1号機 冷温停止状態に入った
- 25:00 予定 文科省からヘリで6名派遣
- 26:15 プレス会見予定
- 8:30 政府調査団第2段出発予定 (内藤審議官、上田、榎本)
- 25:00 1F2 ケーブル接続作業 津波で作業できず 26:00 作業開始の見込み (作業に4時間かかる予定)
- 25:17 女川3号機 冷温停止状態に入った
- 27:00 1F1 ベント予定 ← 東電が発表する予定
- 25:30 官邸より上記につき総理および大臣の了解 (東電および斑目委員長より説明)
- 25:42 安全委員会と会議 (1F1格納容器ベントをすることは同意。それにあたり、避難区域を見直さないことについても了解。若年層の安定ヨウ素剤の投与→投与する段階には至っていない。投与する段階に至ったとしても、服用より遠方への避難を優先するべし。)
- 27:00 METIで会見予定 (東電小森常務、大臣、院長)
- 27:05 官房長官会見

2:44

セト版

左

海江田大臣冒頭御発言要領 (案)

- 昨日発生した平成23年(2011)東北地方太平洋沖地震を受け、各地の原子力発電所の安全を確保するため、電力事業者と経済産業省原子力安全・保安院をはじめとし、政府一丸となって取り組んできたところ。
- これまで、東通、女川、柏崎刈羽の各原子力発電所では安全が確認されているが、もっとも大きな被害を受けた福島第1原子力発電所では、安全確保に向け、引き続き関係者による懸命の取り組みが続けられている。
- このたび福島第1原子力発電所の1号機について、原子炉格納容器の圧が高まっているおそれがあることから、原子炉格納容器の健全性を確保するため、内部の圧力を放出する措置を講ずる必要があるとの判断に至ったとの報告を、東京電力より受けました。私としても、安全を確保する上でやむを得ない措置であると考え
- この作業に伴い、原子炉格納容器内の放射性物質が大気に放出される可能性があります。事前の評価ではその量は微量とみられており、海側に吹いている風向きも考慮すると、現在とられている、発電所から3キロ以内から避難、10キロ以内での屋内待避措置により、住民の皆様の安全は十分確保されており、落ち着いて対処いただきたい。

(司会より)

○引き続き、技術的な詳細について、東京電力の小森常務からご説明いただくこととしたい。

2011年 3月12日 2時55分

東京電力(株) 原子力運営管理部

No. 1666 P. 1

3:00 1/2 号機

福島第一原子力発電所2号機原子炉格納容器内の圧力を低下させる措置の実施について

左

平成 23 年 3 月 12 日
東京電力株式会社
福島第一原子力発電所

平成 23 年 3 月 11 日、当社・福島第一原子力発電所 1 号機（沸騰水型、定格出力 46 万キロワット、2 号機および 3 号機（沸騰水型、定格出力 78 万 4 千キロワット）は定格出力一定運転中のところ、同日午後 2 時 46 分頃に東北地方太平洋沖地震により、タービンおよび原子炉が自動停止しました。

(お知らせ済み)

現時点において、2 号機の原子炉隔離時冷却系による所定の注水がなされていることが確認できない状況であることから、安全に万全を期すため、原子炉格納容器内の圧力を低下させる措置を行うことといたしました。

プラントの復旧に向け、全力を尽くしてまいるとともに、引き続き周辺環境のモニタリングを継続・監視してまいります。

以上

(お問い合わせ先)

福島第一原子力発電所
広報部
TEL 0240-32-2101 (代表)

東電
5/11

2011年 3月12日 2時55分

東京電力(株) 原子力発電部

3:00 1号機

TEL04

No. 1666 P. 1

福島第一原子力発電所 1号機原子炉格納容器内の圧力を低下させる措置の実施について

左

平成 23 年 3 月 12 日
東京電力株式会社
福島第一原子力発電所

平成 23 年 3 月 11 日、当社・福島第一原子力発電所 1 号機（沸騰水型、定格出力 46 万キロワット、2 号機および 3 号機（沸騰水型、定格出力 78 万 4 千キロワット）は定格出力一定運転中のところ、同日午後 2 時 46 分頃に東北地方太平洋沖地震により、タービンおよび原子炉が自動停止しました。
(お知らせ済み)

現時点において、~~2号機~~の原子炉隔離時冷却系による所定の注水がなされていないことが確認できない状況であることから、安全に万全を期すため、原子炉格納容器内の圧力を低下させる措置を行うことといたしました。

プラントの復旧に向け、全力を尽くしてまいるとともに、引き続き周辺環境のモニタリングを継続・監視してまいります。

以上

(お問い合わせ先)

福島第一原子力発電所
広報部
TEL 0240-32-2101 (代表)